

県中教研 保健体育部会だより

第 38 号

発行日 令和5年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 宮脇 哲也
題 字 金山 泰仁 先生

男女共習の意義

主任指導主事 荒屋 輝久

「豊かなスポーツライフの実現を重視し、スポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるようにする観点から、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう、共生の視点を踏まえて指導内容を示すこととした。」

これは、中学校学習指導要領解説保健体育編の中で、共生について述べられている部分です。ここから、今、原則として男女共習で学習を行うことが求められている意義について、理解していただきたいと思います。

今年度、研究大会等で参観させていただいた授業の多くが男女共習で行われていました。ルールを工夫したり、互いを認め合ったりして、生徒が関わりながら生き生きと運動に取り組んでいました。

男女共習とは、単に一緒に活動すればよいということではありません。男女共習で授業を行うに当たっての課題はどのようなことがあるかを捉え、その課題を解決するためにどのようなことを行っていけばよいかを考えることが大切です。また、その課題を解決していく際は、教師だけでなく、生徒だけでもなく、教師と生徒が共に考えていくことが重要です。

人には違いがあることに配慮し、よりよい環境づくりや活動につなげようとすることに自主的に取り組む。そうすることが、きっと生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現につながっていくことでしょう。

今、目の前にいる生徒が、将来余暇を利用して男女でスポーツを楽しむ姿を想像してみてください。その時に、中学校の保健体育科で行った男女共習の学びを思い出してくれたら、うれしく思います。

(東部教育事務所)

運動の多様な楽しみ方を共有する授業展開の工夫

部長 宮脇 哲也

「研究の構想」2年目である今年度は、「心と体を一体として捉え、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか」を研究主題として、特に「楽しさや喜びを味わいながら授業に取り組むことのできる必要感のある学習課題の工夫」、「成果の確認と次時につながる振り返りの充実」に重点をおきながら研究を進めた。

10月に行われた研究大会では3年ぶりに全会員が集まり、研究授業を実施することができた。私は今回3年ぶりに来県された授業力向上アドバイザーの桐蔭横浜大学佐藤教授と共に、富山地区と砺波地区の研究授業に参加させていただいた。

今回の研究授業で「楽しさや喜びを味わいながら授業に取り組むことのできる必要感のある学習課題の工夫」では、既習したことを踏まえながら新しいことにチャレンジするワクワク感が得られたり、学習目標を明示し、達成するための練習について考えさせたりする学習課題が提案された。

また、「成果の確認と次時につながる振り返りの充実」では、ICT機器を利用した成果の確認やワークシートを使用した個人の振り返り、グループごとにホワイトボードを使いながら全体での振り返り、次時の課題を共有するといった提案がなされた。

今回の研究授業では、男女共習の授業展開について、同じ内容の活動を男女別に分かれて活動する場面が見られた。男女の体力差等を考慮しての授業形態だが、身体に触れる可能性のある單元については男女別で活動する配慮は必要だが、それ以外の單元については、「運動の多様な楽しみ方を共有する」観点から、基本的に男女混合で活動する授業展開の工夫が求められる。「研究の構想」最終年である次年度は、男女共習の授業展開の在り方も含め、研究活動に取り組んでいきたい。

(富・新庄中)

第66回 研究大会の取組

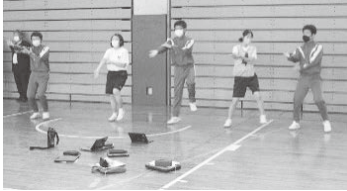
新 川 地 区

(滑・滑川中)

3年 ダンス (現代的なリズムのダンス)

指導者 酒井 遼太

「他の班のダンスを鑑賞して、もらったアドバイス等を発表会につなげよう」を学習課題に、3年生の現代的なリズムのダンスの授業が提案された。提案授業は他の班とお互いの演技を



見せ合い、評価し合うことを通して、課題解決に向けたグループ活動を充実させ、よりよい演技につなげる学習活動であった。タブレット端末等のICT機器を有効活用して映像を確認したり、ロイロノートを用いてアドバイスを送信し合ったり、よかった点や改善点等を確認したりと課題解決のための学び合いの場面が多くみられた。

部会協議では、観察した6つのグループについて活動の様子を参観しての意見交換を行った。また、ICT機器の活用の仕方や工夫等についても話題になり、活発な協議が行われた。

荒屋輝久主任指導主事(東部教育事務所)からは、生徒たちが素直でお互いを尊重しながら活動し、班同士での発表後に自然と拍手が起こるなど、温かい気持ちになるような授業であった。最後に動きを入れて発表させる活動は、授業の中での変容が見て分かり、共有できて非常によかったと評価していただいた。また、生徒が他者を見るポイントを分担する方法も有効であるが、それだけが正解ではなく、それぞれのポイントを総合したアドバイスを行うことも考えられることや、見学者に何らかの役割を与えることが「見る」「支える」につながるの、どうやったら一緒に活動できるかを考えることなど、深い学びにつながる視点について分かりやすく助言をいただいた。

黒川 忍(黒・清明中)

富 山 地 区

(富・城山中)

2年 ダンス「現代的なリズムのダンス」

指導者 鈴木 友之

「既習ステップを取り入れ、見ている人も楽しめるリズムカルなダンスを考えよう!」を学習課題に、2年生男女共習のダンスの授業が提案された。導入では、基本となるステップや動き等の技能の習得に向け、ICT機器で映像教材を確認しながら、音楽に合わせて体を動かしていた。

中盤では「全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール」の規定曲の振付動画を参考にしながら、自分たちでダンスを



つくり上げていく学習内容で、動画をスロー再生したり、自分たちのダンスを撮影したりして、動きの修正や改善に役立てていた。

後半では、友達との話合いから得られた振付のアイデアをシェアし、目標を共有するため



にホワイトボードに貼り付けた付箋を動かしながら、ダンスの構成を練っており、振り付けのながれが一目で分かるよう工夫する様子が見られた。また、グループで共有した振り付けをすぐに試そうとする積極的な姿勢が至るところで見受けられた。

永原みどり指導主事(東部教育事務所)からは、資質・能力の三つの柱を意識した指導計画が立てられていること、参考にする動画を効果的に活用して話合いを進めていることなどを評価していただいた。また、目標や成果の確認の場として発表や交流の場を工夫すること、男女共習のよさや得られる学習の成果についてご指導いただいた。

上田 隆徳(富・藤ノ木中)

第66回 研究大会の取組

高岡地区

(氷・西條中)

2年 武道「柔道」

指導者 小坪 達也
山田 真功

「体落として技をかけて投げるポイントを確認し、仲間のよさや改善点を伝え合おう」を学習課題として、柔道（2学年男女共習）の授業が提案された。授業は外部指導者とチーム・ティーチングで行われ、専門的な技の示範やアドバイス等により、生徒の技能向上の一助となっていた。また、既習



事項や前時までの学習内容が掲示物やワークシート等に明示しており、生徒の主体的な学びにつながっていた。導入や振り返りでは、タブレット端末を活用して技のポイントを映像で確認する時間が設けられ、生徒の変容が分かりやすく解説されていた。技の練習の場面では、同じ課題をもつ生徒同士でグループが編成されており、生徒同士が関わり合いながら活動できる環境が整えられる中で、生徒は協働的に課題解決に取り組んでいた。さらに、安全面や恐怖心に配慮した場の設定や段階的な技能練習の取組等により、生徒の思いに寄り添った学習活動が展開されていた。



部会協議は、生徒の活動の様子を基に話し合いが行われた。「外部指導者との役割分担が明確で、連携が密接に図られていた。」「安全面への配慮、技の系統を意識した技術指導が大切である。」等の意見が出された。大菱池仁子指導主事（西部教育事務所）からは、学習指導要領解説を踏まえながら単元構想や評価計画等、指導案の作成における留意点について、指導していただいた。また、武道の授業における安全指導等について、具体的な事例を基に分かりやすく助言をいただいた。

大嶋 賢（氷・西條中）

砺波地区

(南・福野中)

2年 球技「バレーボール」

指導者 本田 朱里

「三段攻撃を目指して、チームの課題解決のために練習しよう」を学習課題に、2年生によるバレーボールの授業が提案された。

授業は、対面パスの準備運動から始まり、チームで円陣パスを行った。その後、チームミーティングで自分たちの課題を確認し、チームごとに練習を行った。課題解決の手助けとしてICT機器を用い、大型テレビで国際大会



のビデオ動画を視聴してポジションや構えの確認をするチームもあった。スパイクの助走とタイミングを合わせる、又はトスを正確に上げる練習をチームごとに選択し、実践した。その後、ゲームに取り組み、課題が解決されているかの検証を行った。

部会協議①では、各チームの動きから、本時のねらいや指導過程の工夫について意見が出された。「話し合いと課題練習が一致していないときの教員の言葉かけ」や「他のチームや仲間との関わり方」等について、多くの意見が出された。

荒屋輝久主任指導主事（東部教育事務所）から、①指導計画②指導過程③評価の三点の工夫について助言をいただいた。また、本時で評価することが難しいと判断した評価項目については次時で評価するなど柔軟な対応について教えていただいた。

部会協議②では、授業力向上アドバイザーの佐藤豊先生（桐蔭横浜大学）より、評価の方法について具体例を挙げながら指導していただいた。

松本 大輔（小・蟹谷中）

令和4年度 実践報告

体育分野「現代的なリズムのダンス」

報告者 富山大学教育学部附属中学校
鵜飼 雅信

第1学年を対象に現代的リズムダンスの学習を実施した。私自身、現代的なリズムのダンスの授業に取り組む中で上手いかなと感じることが多い。具体的な例を挙げると、「ステップを覚えること（教えること）が中心で生徒が主体的に活動できていない」「コミュニケーションが取れていない・逆に話に夢中になって運動時間が少ない」「グループ毎の練習時に他の音源が混ざって聞こえて集中しにくい」「既習の動きや気付きを、最終的なダンスに生かしきれない」等、枚挙にいとまがない。そこで今回は、上記のような私自身が感じる授業の課題解決に向かうことも含め、本年度の県保健体育部会の重点である、

- ①楽しさや喜びを味わいながら授業に取り組むことのできる必要感のある学習課題の工夫
- ②成果の確認と次時につながる振り返りの充実

の2点を授業づくりの中心に据えて実践した。今回は、紙面の都合上、授業づくりの具体的な工夫に絞って紹介したい。

単元前半【生徒の意欲を高め、仲間と関わりながら、安心してダンスに取り組むための工夫】

本単元では、単元終末での自分たちで考えたダンス発表会を最終目標とした。そこで単元前半では、4つのテーマ（はねる・振る・曲げる・ずらす、移動する）に分けたステップの習得することを目的とした。そのため、学習課題は「楽しもう」「身に付けよう」といった「Let's型」の学習課題となる。また、生徒が意欲的に安心して学習に取り組めるように、毎時間共通して以下のような工夫を取り入れた。

学習の流れは変えない

【新しいステップを知る→練習→ダンス発表】という基本的な授業の流れは変えず、動きや学習課題を変えることで、生徒が見通しをもち安心して学習に取り組めるようにする。

グループは変える

毎回男女共習で違う仲間と活動することで、関わり合うことへの抵抗感を減らし、固定的な人間関係にとらわれない雰囲気をつくる。

4つの新しいステップを取り上げる

1つのテーマにつき4つの比較的簡単なステップを精選した。単元後半のダンスづくりにつながりをもたせるテーマ毎に学習することで、1時間ごとの達成感を得られるようにする。

8拍×4の短い音楽を設定し、練習中はリピートして体育館全体に聞こえるようにつなげる。

全体で共通の音源で練習することで、動きと音

に集中しやすい環境をつくる。また、1回あたり40秒程度なので、途中で話合いが生まれても、すぐに練習再開することができるようにする。

活動の場は、全グループが中央を向くように位置付け、常に他の取組が視野に入るようにする。

他のグループの取組が見えることで、新たな気付きを得ることができる。また、教師の動線の無駄を省き、全体指導にスムーズに移行できるようにする。

本時に学習したステップを組み合わせる短いダンスをつくり、発表をする（撮影）。

短いダンスをつくる際には、毎回簡単な条件を付け加える。例えば、[移動する]がテーマの学習においては「必ず初めと終わりで違う隊形になっていて、決めポーズで終わること」とした。そうすることで、生徒の中で関わり合う必要性が生まれる。また毎時間、短いダンスづくりを経験していくことで、単元後半での発表会用のダンスづくりに生かせるねらいをもたせた。さらに、撮影した動画は、オンライン学習システムを使いクラスで共有し、学習を振り返ったり、ダンス作成の参考にしたりできるようにする。

単元後半【発表に向けて仲間と協力しながらダンスをつくり上げるための工夫】

単元後半は、前半での学習を生かしてダンスをつくる。生徒は、ステップを組み合わせたり、移動やずらしを生かしたりしたダンスづくりの経験を積んできている。そこで、単元後半の学習課題は「どのようにしたらよりよくなるか」というような「How型」の学習課題とした。また、単元前半の学び方を生かした学習にすることで、生徒が学習課題に集中できるよう以下の工夫をした。

発表用の曲を始め・サビ・終わりの局面に分け、1時間に1局面ずつダンスをつくる

各局面は、8拍×4～6程度なので、前半の学び方を生かし、練習中はリピートして体育館全体に聞こえるようにつなげる。生徒を音源の操作から解放し、ねらいの明確な活動につなげる。

生徒の意欲を高める発表の場をつくる

発表は、2クラス合同で行い、体育教員以外の先生方も観覧できるようにした。また、照明器具を用いてダンスを楽しむ雰囲気を大切にする。

以上、授業をつくる上で工夫した点を挙げた。私自身、試行錯誤する中で、少しでも生徒の学びが深まるように実践してみたつもりである。経験豊かな諸先生方から見ると、当たり前のこと多いと思うが、このような我々教員一人一人の工夫が、もっと富山県全体で共有できるような富山県中教研保健体育部会であれば、私はとても嬉しいし、そうあってほしいと願っている。

ダンス発表会の様子

